

## 第十三章 眼科プログラム

### 1. 研修の概要

高い倫理観と豊かな人間性の陶冶、眼科の基本的な医学知識と技術の修得およびそれを維持する生涯学習を続ける態度、習慣を修得し、さらに医療チームの一員として他の医療スタッフと連携し、高度医療をおこなう協調性を修得することを目標とする。また視力、眼圧、眼底検査などの眼科一般検査はもとより蛍光眼底造影や視野検査などの特殊検査を含めた眼科検査全般について正しく理解し、基礎的治療手技を修得する。また眼科領域の救急診療を学び、適切な診療指針を立てることができることも目指していく。

2. 研修目標（細字は3ヶ月程度の研修で経験できる項目、太字は6ヶ月程度の研修で経験できる項目、下線は厚生労働省のガイドラインに記載されている項目）

#### I 行動目標

- [1] 医の倫理、チーム医療、患者およびその家族との人間関係、社会との関連性を理解し実践する
- [2] 医療に関する法律を理解する
- [3] 自己学習と自己評価を実践する
- [4] 一般の眼科の初期救急医療に関する知識、技術を習得する

#### II 経験目標

- [1] 臨床医に求められる基本的な診察に必要な知識、技能、態度を修得する
- [2] 眼科臨床に必要な基礎的知識としては次のものを含む  
(眼の解剖、組織、生理、免疫、遺伝、薬理、失明予防等)
- [3] 眼科診断技術、検査手技を修得する

A 視力	遠方視力、近方視力、裸眼視力、矯正視力
B 屈折	自覚的検査、レフラクトメーター
C 眼位	Hirschberg 法、Krimsky 法、交代遮蔽試験
D 眼球運動	ひき運動（9方向）、Hess 赤緑試験
E 両眼視機能	ステレオテスト、大型弱視鏡
F 眼圧	Goldmann 圧平眼圧計、ノンコンタクト トノメーター
G 細隙灯顕微鏡検査	前眼部（結膜、角膜）、虹彩および中間透光体（前房、水晶体、硝子体）、隅角、網膜
H 眼底検査	倒像鏡検査
I 瞳孔	瞳孔径の測定（明所、暗所）、近見反応、対光反応（直接反応、間接反応、交互対光反応試験）
J 視野	動的視野、静的視野
K 色覚	仮性同色表（石原表、標準色覚検査表（SPP））、色相配列検査（Panel D15）
L 眼底写真撮影、蛍光眼底撮影	
M 電気生理学的検査	網膜電図、視覚誘発電位
N 超音波検査	<u>A モード撮影、B モード撮影</u>
O 涙液検査	Schirmer 検査
P 眼球突出度	Hertel 眼球突出度計
Q 画像検査	<u>X 線、CT scan、MRI</u>

[4] 基礎的治療手技を修得する

- A 点眼薬
- B 結膜下注射
- C 涙嚢プジー、涙嚢洗浄
- D 眼鏡の処方
- E 伝染性疾患の治療および予防
- F 入院手術患者の術前および術後処置
- G 外来手術手技（麦粒腫切開，霰粒腫摘出）
- H 助手あるいは術者として入院手術手技を経験し、顕微鏡手術に慣れる（斜視，白内障，眼瞼内反など）

[5] 経験すべき症状

原因疾患の鑑別診断を行い、初期治療を的確に行う能力を獲得する

- A 視力障害
- B 視野異常
- C 充血（結膜の充血）および眼脂
- D 異物感
- E 流涙
- F 眼痛
- G 複視
- H 飛蚊症

[6] 経験が求められる疾患、病態

屈折異常（近視、遠視、乱視）、角結膜炎、白内障、緑内障、ぶどう膜炎、斜視、網膜剥離、視神経炎の検査、診断、治療を行う

糖尿病、高血圧、動脈硬化による眼底変化を理解、診断、治療する

3. 週間スケジュール

曜日	時間・内容
月	午前： 外来診療      午後： 特殊検査、外来処置、網膜光凝固術
火	午前： 外来診療      午後： 手術
水	午前： 外来診療      午後： 特殊検査、外来処置、網膜光凝固術
木	午前： 外来診療      午後： 外来診療
金	午前： 外来診療      午後： 手術